

公開シンポジウム

「参加と連帯の セーフティネット」 構築に向けて

2010年 7月31日(土) 1pm ~ 5pm

場所：同志社大学臨光館 R302

新町キャンパス・京都市地下鉄「今出川」駅2番出口から西へ徒歩5分

趣旨

現在、日本ではセーフティネットを構成する雇用や社会保障制度から漏れ落ちている人々は少なくありません。それは、非正規労働者に代表されるようなワーキング・プア、長期失業者、学卒未就業者、ひとり親といった人々です。その原因として、セーフティネットの機能不全や綻びがこれまでも指摘されてきましたが、2008年には世界同時不況、2009年には政権交代など劇的な出来事が起こり、セーフティネット改革の必要性はますます高まっています。連合総研では、2007年秋に「参加保障・社会連帯型の新しい社会政策・雇用政策の大綱に関する研究委員会」（主査：埋橋孝文・同志社大学教授）を発足させ、約2年間にわたり中長期的な視点から新たなソーシャル・セーフティネットのあり方、具体的な制度設計の検討を重ねてきました。このたび、その研究成果として、『参加と連帯のセーフティネットー人間らしい品格ある社会への提言』をとりまとめました（埋橋孝文・連合総研編、ミネルヴァ書房より2010年6月刊行）。今回のシンポジウムでは、同書の執筆者を迎え、「参加と連帯のセーフティネット」とは何か、その内容について提案し、議論します。

◆主催者あいさつ◆

草野忠義 連合総研理事長

◆シンポジスト◆

埋橋孝文（同志社大学）

「今なぜ参加と連帯のセーフティネットか」

吉村臨兵（福井県立大学）

「セーフティネットとしての最低賃金」

山脇義光（連合総研）

「求職者就労支援制度の創設」

阿部彩（国立社会保障・人口問題研究所）

「ワーキング・プア対策としての給付つき税額控除」

室田信一（NPO 法人 M-CAN）

「地域における参加の入り口ー相談援助機能」

参加費無料・事前申し込み不要



主催 同志社大学社会福祉教育・研究支援センター、連合総合生活開発研究所
共催 日本労働ベンクラブ関西支部、NPO 法人あったかサポート
同志社大学ライフリスク研究センター、ラポール学園
協賛 連合大阪、連合京都、連合滋賀、連合奈良、連合兵庫、連合和歌山
自治労京都府本部、大阪地方自治研究センター

問合せ・連絡先

同志社大学社会福祉教育・研究支援センター
電話 075-251-4902【水曜日のみ】
メール derc-sw@mail.doshisha.ac.jp